



向陵広場

発行号 第53号
 発行日 令和元年11月21日(木)
 発行元 向陵編集校友会
 責任者 伊藤有司 (県商10回卒)

和菓子に新旋風を 若杉 彰 氏 県商23回卒 (昭和49年3月)

プロフィール

会社名 大正軒(和菓子製造販売)
 代表者 若杉 彰 大正軒5代目 代表取締役
 豊橋生菓子組合理事
 とよはしシネマトーク倶楽部主宰
 住 所 豊橋市新本町10

和菓子に受け継がれている味と技法

現在、豊橋の新本町で「餅菓子処大正軒」の5代目として製造、販売に携わっている。明治9年創業の老舗として、また「みたらしだんご」の名代として定評をいただいている。

仕事が忙しい家庭だけに、小学校高学年ころから家業の和菓子の作りを手伝ったり、店番や、かき氷、ぜんざいなどの配達もさせられたことがある。何となく、こういう仕事をするのかなあと子供心に芽生えたころである。

しかし、親、特に父親からは家を継げ、という話は一切なかった。よく言われたことは「お前の好きなことをしなさい」ということだ。後に聞いた話では画家を目指していた父は、3代目である祖父が病弱だったこともあり、画家になる道をあきらめ、戦後すぐに家を継いだこともあり、長男である私には同じような思いをさせたくなかったと聞く。

豊商卒業後大阪芸術大学映像計画学科に入学し、本格的に映画の勉強を始めていくとは自分でも夢のような思い出だった。大学生活は親の援護もあり、5年間の充実した日々を送っている。

30歳が近くなるにつれ、アパートに届く母親からの手紙の片隅に父親のけがのことや、家業の大変さなどが増えるにつれ、「これはそろそろ潮時かな」という思いが強くなるようになっていた。31歳で豊橋に戻る決意をした。正月に帰省した折に、そのことを父親に告げると、「そうか」としか言わなかったが安心したような顔にみえたのには安堵した思いがあった。

映画の就職はあきらめたが、好きな映画を語り合いたいという思いから映画同好サークル「とよはしシネマトーク倶楽部」を設立し、今年で23年になる。

老舗の伝統や味覚を受け継ぐだけでなく、時代に応じた和菓子を考案してお客様のニーズに応えられるようにさらに精進する覚悟です。

(豊商の群像Ⅲより抜粋)



店舗前にて



「大正軒」全景

先代が製作した「みたらし団子焼き機」は現在もお客様のニーズに応じて稼働中

